

目 次

I	平成27年度 さいたま市学習状況調査の概要	1
II	調査結果と特徴的な問題の解説	
i	小学校第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	4
2	調査問題一覧表【設問別】	5
3	特徴的な問題と解説	6
ii	小学校第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	8
2	調査問題一覧表【設問別】	9
3	特徴的な問題と解説	10
iii	中学校第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	14
2	調査問題一覧表【設問別】	15
3	特徴的な問題と解説	16
iv	中学校第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	20
2	調査問題一覧表【設問別】	21
3	特徴的な問題と解説	22
III	調査結果概況【市全体】	26
IV	成果と課題	28

Ⅱ 調査結果と

特徴的な問題の解説

社会科の調査問題について、小学校第5学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校の内容を日々の学習指導に役立ててください。

1 調査問題【出題の趣旨】

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

2 調査問題一覧表

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらい、市の平均正答率を示しています。

3 特徴的な問題と解説

平成27年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

i 小学校第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】

<p>① 県の様子</p>	<p>本問題は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」において他の問題や前年度までの結果と比べて正答率が低く（昨年度正答率（1）44.6%（2）43.4%）課題とされた、地図帳を活用して解答する問題の類題である。今回は、実際に地図帳は使わないが、日々の学習でどれだけ地図や地図帳に親しんでいるかどうかをみる形式で出題している。</p>
<p>② 県の様子</p>	<p>本問題は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」において、「複数の資料を関連付けて読み取ること」が課題とされていることを受けて設定した問題（昨年度正答率63.9%）である。文中の方位や地形、土地利用等について、一つひとつの地図資料から必要な情報を正確に読み取る力とともに、二つの地図資料を関連付けて読み取る力をみる問題を出題している。</p>
<p>③ 我が国の国土</p>	<p>本問題は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」において、地図帳を使って答える問題の正答率は平均で63.5%であり、課題とされた「方位や位置の概念を理解すること」に関連した問題である。今回は、現行の学習指導要領に新設された「世界の主な大陸と海洋」より、「世界地図を活用して、我が国の位置について大陸と海洋、方位を使って正しく説明しているものを選択することができる」かどうかをみる形式で出題している。</p>
<p>④ 我が国の国土</p>	<p>本問題は、「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」において出題された「北方領土の位置と名称及び北方領土がロシアに不法に占拠されていることを理解している」かどうかをみる問題の類題である。（全国の平均正答率（1）67.9%（2）46.9%（3）47.6%）なお、気温と降水量のグラフ（雨温図）は、小・中一貫教育の視点から中学校でも類題を出題している。</p>
<p>⑤ 生産や販売</p>	<p>本問題は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」において、課題（昨年度正答率（1）76.1%（2）89.2%）とされた「社会的事象の意味を考えること」を問う問題である。なお、スーパーマーケットの見学時に、消費者の願いとスーパーマーケットで働く人の工夫を結び付け、正しいものを選択することができるかどうかをみる問題を、平成25年度より選択肢等を変えながら出題し、経年比較できるよう出題している。</p>
<p>⑥ 農業</p>	<p>本問題は、小・中一貫教育の視点から、「さいたま市小・中一貫教育カリキュラム」において、「円滑な接続のための指導のポイント『統計資料の活用の仕方』」に挙げられている「資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえること」に関連した問題である。今回は、都道府県別の米の生産量の分布図から必要な情報を読み取り、米の生産量についての正しい説明を選択することができるかどうかをみる問題を出題している。</p>
<p>⑦ 水産業</p>	<p>本問題は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」及び「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」において、「資料から必要な情報を的確に読み取ることや、読み取ったことを関連付けて考えること」が継続した課題とされており、これに関連した問題である。今回は、日本の漁業の変化について複数の資料から必要な情報を読み取ったり、水産物の価格の決め方について2つの資料を関連付けて考えたりすることができるかどうかをみる問題を出題している。</p>
<p>⑧ 工業生産</p>	<p>本問題は、「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」において「資料から読み取った情報を比較したり、相互に関連付けたり、総合したりして社会的事象の働きや役割などを考え表現すること」が課題とされており、これに関連した問題である。今回は、自動車の生産において、人とロボットが分業する理由や決まった時間に部品が届く仕組みの利点を問い、自動車づくりが効率よく進められていることを考えられるかどうかをみる問題を出題している。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				市 正答率 (%)	市 無解答率 (%)
		基礎問題	活用問題	関社会的 心・的 意事象 欲事象 への 態度	社会的 な思考 ・判断 ・表現	観察・ 資料 活用の 技能	知社会的 ・的 理事象 解事象 について の		
1(1)	索引を利用し、地名を探す方法を理解している。	○				○	○	92.1	0.6
1(2)	地図を活用し、埼玉県の地理的な位置やまわりの様子などを読み取ることができる。		○			○	○	35.8	0.7
2(1)	使用する目的にふさわしい地図を選ぶことができる。	○				○		88.8	0.8
2(2)	二つの地図を関連付けて考え、埼玉県の様子を読み取ることができる。		○		○	○		76.0	0.8
3(1)	世界地図を活用して、我が国の位置について大陸と海洋、方位を使って正しく説明しているものを選ぶことができる。	○				○	○	82.8	0.8
3(2)	赤道について理解している。	○					○	58.8	3.2
4(1)	北方領土の位置を理解している。	○				○	○	57.3	5.6
4(2)	北方領土の名称を理解している。	○					○	51.2	16.0
4(3)	北方領土が、ロシアに不法に占拠されていることを理解している。	○					○	49.0	12.9
4(4)	日本海側の気候の特徴を示す雨温図を理解している。	○				○	○	43.3	3.1
5(1)	お客様の願いに対応するスーパーの工夫を調べる時に、ふさわしい売り場と事柄を結び付けることができる。	○			○			84.3	0.8
5(2)	お客様の願いとそれに対するスーパーの工夫を結び付けることができる。	○			○			90.7	0.8
6(1)	都道府県別の米の生産量の分布図を正しく読み取ることができる。	○				○		87.4	0.9
6(2)	資料から、品種改良という用語を理解し、記述することができる。	○					○	36.8	24.6
7(1)	複数の資料を読み取り、日本の漁業の変化について、正しく述べているものを選ぶことができる。		○			○		74.6	2.5
7(2)	グラフと説明文から、育てる漁業（又は栽培漁業、養殖）という用語を理解している。	○					○	51.2	12.6
7(3)	二つの資料から、さんまの水あげ量と値段の決まり方との関係を考え、文で表現することができる。		○	○	○			64.5	7.7
8(1)	自動車工場の絵カードを作業順に正しく並べることができる。	○				○	○	61.1	1.4
8(2)	ロボットに溶接の作業をさせる理由を考え、適切でないものを選ぶことができる。		○		○			43.3	2.2
8(3)	組み立ての際、様々な部品が関連工場で作られている理由を考えることができる。	○			○			46.0	2.5

3 特徴的な問題と解説

小学校第5学年 水産業

【特徴的な問題】

- 問題** 7(1) 日本の漁業の変化について、正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。
- (3) 水あげ後のせりで、さんまにつけられた値段に違いがありました。そのわけを、「水あげ量」という言葉を使って説明しましょう。

出題の趣旨

本問題は、複数の資料から必要な情報を的確に読み取る力や、読み取ったことを関連付けて考える力をみるために出題した。

これらの力は、これまでのさいたま市学習状況調査から継続してみられる課題である。また、小・中一貫カリキュラムにおける「円滑な接続のためのポイントの系統表」に「統計資料の活用の仕方」が示されており、授業においても問題解決的な学習を展開する上で大切な力であるため出題した。

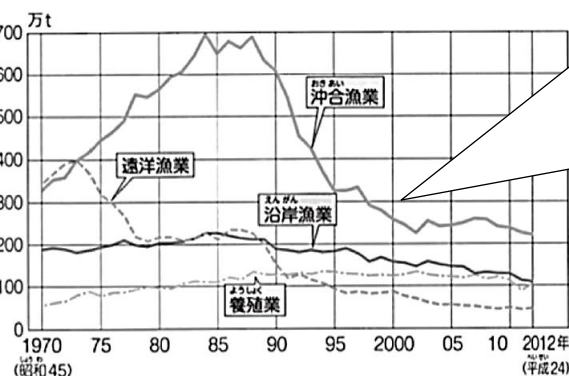
指導のポイント

1 グラフの読み取り方

○折れ線グラフ

…数や量の変化

- ① 表題の確認
 - ② 縦軸、横軸の確認
 - ③ 各折れ線が表しているものの読み取り
 - ④ 全体の変化の読み取り
 - ⑤ 変化の大小の着目
- ※傾きが急＝変化大



○児童の思考の流れ

- ・沖合漁業については、資料3を使えば分かるよ。
- ・1970年～1985年頃までは生産量が増えているが、その後は減っているね。

例えば、資料3の折れ線グラフについては、①～⑤のような手順で指導をしていき、数や量の変化に着目させる。授業では、そこから特徴を読み取ったり、なぜ変化しているのかを予想したりする活動が考えられる。他にも、棒グラフでは数や量を比べること、帯グラフでは割合や割合の変化をみること、円グラフでは割合をみることなど、それぞれのグラフの読み取り方を指導する必要がある。

2 2つの統計資料を関連付けて考える

7月と比べて9月は約50倍も水あげ量が多いよ。

7月	9月
963 トン	49832 トン

資料4 さんまの月別水あげ量 (水産庁)

7月のある日	9月のある日
1kg 2000 円	1kg 50 円

資料5 水あげ後のせりで、さんまにつけられた値段のちがい

7月は2000円なのに、9月は50円で40分の1だよ。

2つの資料を関連付けて考えるために、まずそれぞれの資料の変化の特徴を読み取り、その上で、2つの資料の関連について考えることが大切である。この場合は「水あげ量が増えたため、価格が下がっていること」を考えられるようにしたいので、「だから」「そのため」などの接続語を使って関連を表現するよう指導するとよい。また、その理由がつかみにくい場合は、需要と供給のバランスについて、身近で具体的な例を出して説明するとよい。

小学校第5学年 工業生産

【特徴的な問題】

問題 8 (2) 溶接の絵カードには、わかったことが次のように書かれています。

- ・車体の部品をつなぎ合わせて車のほね組みをつくります。
- ・作業は、人ではなくロボットが行います。
- ・なぜかという、です。

空らんには当てはまるものとして適切でないものを下の1～4の中から選んで、その番号を書きましょう。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 仕上がりにばらつきがないから | 2 環境にやさしいから |
| 3 火花が散って危険だから | 4 作業スピードが速いから |

出題の趣旨

本問題は、「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」（国立教育政策研究所）で課題とされた「資料から読み取った情報を比較したり、相互に関連付けたり、総合したりして社会的事象の働きや役割などを考え表現すること」に関連した問題である。今回は、自動車の生産において、人とロボットが分業する理由や決まった時間に部品が届く仕組みの利点を問い、自動車が効率よく生産されていることを考えられているかをみる問題を出題した。

指導のポイント

本小単元では、組み立て工場の見学を実施する学校が多い。社会科見学を有効に活用するためには、事前や事後の学習活動の工夫や充実を一層図ることが大切である。

1 見学前の疑問点の洗い出しや予想する活動の充実

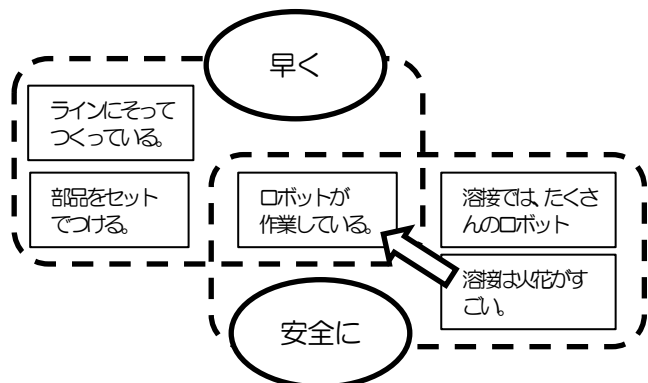
自動車会社のWebページなども活用し、具体的な生産をイメージして疑問を出したり、予想をしたりする時間をもつ。その際、自動車づくりの工程や働く人々の思いや願い、工夫や努力などについて、予想をさせることで、視点を明確にして見学に臨ませたい。

富士重工「ファクトリーストーリー」
<http://www.fhi.co.jp/kids/factory/>
 三菱自動車「こども車ミュージアム」
<http://www.mitsubishi-motors.com/jp/social/contribution/kids/vfactory/>
 など

- ・ロボットは、どのような作業をしているのか。 ⇒ ⑤重いものを付けたり、危険な作業をしていると思う。
- ・働いている人たちは、どのようなことに気を付けているの？ ⇒ ⑥部品の付け間違いや付け間違いがないか気を付けて作業していると思う。

2 見学後に得た情報を比べたり、つなげたり、まとめたりする活動の工夫

見学した後は、分かったことや気付いたことを絵カードや短冊にまとめ、仲間分けする活動をする、工夫とその目的を結び付けてとらえることができる。自動車工場であれば、「早くつくる工夫」や「間違えずにつくる工夫」、「安全に作業する工夫」などに分類することができると思われる。



ii 小学校第6学年

1 調査問題【出題の趣旨】

① 身近な地域や市	本問題は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」において正答率が(1)57.8%、(2)47.5%、(3)昨年度該当なし(4)47.5%で課題とされた「身に付けた知識を地図上の情報と関連付けて活用すること」を受けて設定した問題である。方位と地図記号を基に地図を読み取ったり、道順を説明したりすることができるかをみる内容で、経年比較するために前年度と類似の問題を出題している。
② 我が国の国土	本問題は、「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」において出題された、「我が国の領土の西端を理解している」及び「我が国の領土の南端、東端の島が東京都に属することを理解している」かどうかをみる問題と類似の問題である。(全国の平均正答率(1)47.9%(2)50.5%)今回は、我が国の領土の東端と西端を問う内容に変えて出題している。
③ 事故の防止	本問題は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」において、事故が発生した際に関係諸機関が連携し、速やかに事態に対処する体制をとっていることを理解しているかどうかを問う問題と類似の問題である。(昨年度正答率60.4%)今回も小学校4年生までに学習した、消防署と警察署の仕事の特色や交通事故が起きた際の連絡体制について、正しいものを選択することができるかどうかをみる問題を出題している。
④ 廃棄物の処理	本問題は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」において正答率67.6%で課題とされた「資料から読み取った情報を、比較・関連付け・総合して考えること」を受けて設定した問題である。今回は、ごみの量の変化と、人口の変化を比較しながら考えられているかどうかをみる問題を出題している。
⑤ 地域の人々の生活	本問題は、平成24年度から経年比較をするために毎年出題しているもので、地図と略年表を関連付けて、井沢弥惣兵衛の業績について正しく読み取ることができるかどうかをみる問題である。なお、「平成26年度さいたま市学習状況調査」における正答率は、60.1%で、「必要な情報を資料から正確に読み取る力」が課題とされた。
⑥ 大仏造営の様子	本問題は「平成26・27年度さいたま市学習状況調査」の中学校社会において出題された、聖武天皇が大仏を建立した理由を時代背景とともに説明しているかどうかをみる問題(昨年度中学校正答率51.5%)と類似の、「聖武天皇の業績の理解」及び「資料から天皇中心の国づくりについて考え表現すること」ができるかどうかをみる問題である。また、さいたま市小・中一貫教育カリキュラム「円滑な接続のための指導のポイント『写真・絵画の活用の仕方』」を考慮して指導してもらうために出題している。
⑦ 元との戦い	本問題は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」の中学校社会において出題された、資料から元寇の様子について読み取ることができるかどうかをみる問題(正答率70.9%)と類似の問題である。さいたま市小・中一貫教育の視点から、中学校では、時代を大観するための資料の一部として絵図を取り上げるのに対して、小学校では絵図を正確に読み取る活動を中心にして課題意識をもたせるために本問題を出題している。
⑧ 室町文化	本問題は「平成26年度さいたま市学習状況調査」の中学校社会において出題された足利義満についての知識を身に付けているかどうかをみる問題(昨年度中学校正答率34.7%)と類似の、室町時代に活躍した人物についての業績などを理解しているかをみる問題である。加えて、学習指導要領社会科改訂の要点(2)の③「我が国の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育てることを一層重視する」ことを受けて出題している。
⑨ 明治維新	本問題は、「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」において課題とされた、「明治期以降の歴史上の人物と業績」の一部(同時期に活躍した人物の理解)に関連した問題である。(全国の平均正答率おおむね60%未満)今回は、明治維新の頃に活躍した人物(西郷隆盛、福沢諭吉)の業績について、正しく理解できているかどうかをみる問題を出題している。
⑩ 大日本帝国憲法の発布／科学の発展	本問題は、「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」において課題とされた、「明治期以降の歴史上の人物と業績」の一部(同時期に活躍した人物の理解)に関連した問題である。(全国の平均正答率おおむね60%未満)今回は、明治維新の頃に活躍した人物(西郷隆盛、福沢諭吉)の業績について、正しく理解できているかどうかをみる問題を出題している。

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				市 正答率 (%)	市 無解答率 (%)
		基礎問題	活用問題	社会的 事象への 関心・意欲・ 態度	社会的な 思考・判断・ 表現	観察・ 資料活用 の技能	社会的 事象に ついての 知識・ 理解		
1(1)	地図記号を理解し、方位を表すことができる。	○				○	○	54.6	4.4
1(2)	発見カードと地図記号を読み取り、正しい組み合わせを選ぶことができる。	○				○	○	40.7	1.0
1(3)	方位と地図記号を基に、地図を読み取ることができる。		○			○	○	77.5	1.2
1(4)	「方位」と「目印になる建物や道路」を使って、道順を文で表現することができる。		○	○	○			48.8	3.8
2(1)	我が国の領土の西端を理解している。	○					○	41.2	0.5
2(2)	我が国の領土の東端と西端の島が、それぞれ東京都と沖縄県に属していることを理解している。	○					○	50.6	0.7
3(1)	消防署と警察署の仕事に共通することを考え、選ぶことができる。	○				○	○	81.5	0.3
3(2)	図から、交通事故が起きたときの連絡の仕組みを読み取ることができる。	○					○	83.9	0.3
4(1)	二つのグラフから、ごみの量と人口の変化を関連付けて、相関関係を読み取ることができる。		○			○	○	84.4	0.3
4(2)	資料から、ごみがどのように処理されるかを読み取ることができる。	○				○	○	46.9	0.5
5(1)	地図と略年表を関連付けて、井沢弥惣兵衛の業績について正しく読み取ることができる。		○			○	○	63.4	0.8
6(1)	聖武天皇が大仏をつくった寺の名称を理解している。	○					○	61.4	0.4
6(2)	大仏づくりに使われた金属の産出地の資料から、天皇中心の国づくりについて考え、言葉を入れて文を完成させることができる。		○	○	○	○		74.9	3.4
7(1)	元軍との戦いの絵図の資料から、読み取れないものを選ぶことができる。	○				○	○	80.5	0.3
8(1)	足利義満の業績を理解している。	○					○	65.1	0.8
8(2)	室町文化に活躍した人物（雪舟）を理解している。	○					○	59.3	15.3
9(1)ア	明治維新の頃に活躍した人物（西郷隆盛）を理解している。	○					○	67.7	1.0
9(1)イ	明治維新の頃に活躍した人物（福沢諭吉）を理解している。	○					○	89.3	1.0
10(1)	明治中・後期から大正期に活躍した人物（伊藤博文）を理解している。	○					○	43.6	14.7
10(2)	明治中・後期から大正期に活躍した人物（野口英世）を理解している。	○					○	88.3	1.3

3 特徴的な問題と解説

小学校第6学年 武士の政治

【特徴的な問題】

問題 7 (1) 日本の武士と元軍の戦い方について、資料1から読み取れることとしてまちがっているものはどれですか。下の1～4の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

出題の趣旨

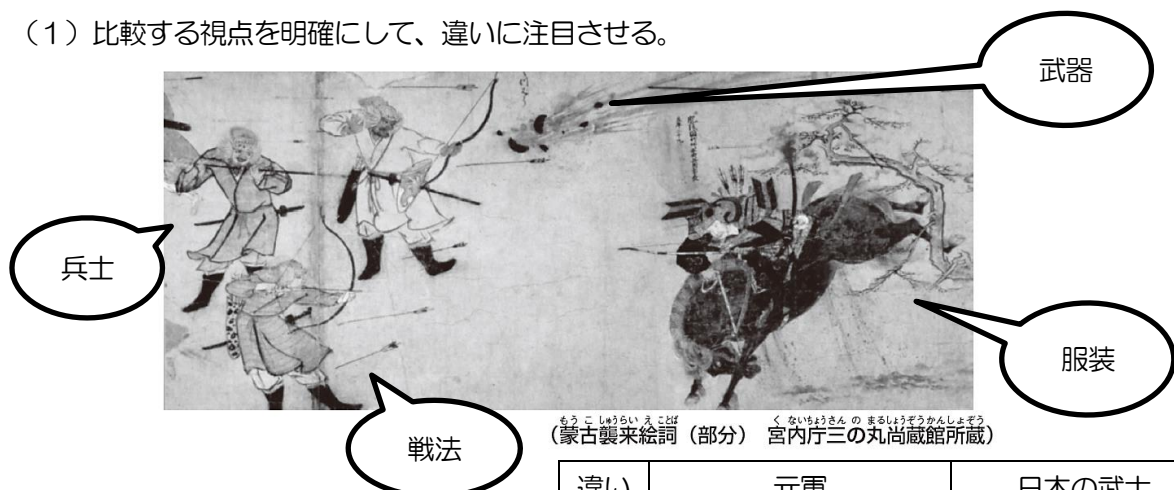
本問題は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」の中学校社会において出題された、「資料から、元寇の様子について読み取ることができる」かどうかをみる問題（正答率70.9%）と類似の問題である。小・中学校の指導のポイントの共通点として、絵図や写真などの資料を具体的に調べ、学習活動のねらいに迫っていくことが挙げられる。さいたま市小・中一貫教育の視点から学習活動、学習内容の関連を図るため、本問題を出題した。

指導のポイント

1 絵図の正確な読み取り

絵図の読み取りの指導を行うことで、ねらいに迫っていくことができるようにする。

(1) 比較する視点を明確にして、違いに注目させる。



(2) 比較したことを表にまとめさせる。

読み取ったことを視点別にまとめさせることで、違いがはっきり分かるようになる。

違い	元軍	日本の武士
武器	短い矢、やり、火薬	長い矢、刀
兵士	集団	馬に乗った武士
服装	布などでできた軽い服	重いよろい、かぶと
戦法	火薬を使った集団戦法	一騎打ち

2 資料の効果的な提示

資料提示を工夫することで、絵図の読み取りをより深めることが可能となる。目的に応じて提示方法を使い分けるとよい。

(1) 絵図の拡大コピー→戦い方の違いが表れている部分を確認し、学級全体で共有を図りやすい。

(2) 実物投影機などのICT機器の利用→確認させたい部分に注目させやすい。

ただし、ICT機器で提示した資料は、板書に残らないので、注意が必要！

小学校第6学年 室町文化

【特徴的な問題】

問題 8 (2)



白黒で
大自然の
すばらしさを
表現した
(ア)
の
すみ絵

上のキャッチフレーズの (ア) に当てはまる人物の名前を書きましょう。

出題の趣旨

本問題は、キャッチフレーズから「室町文化に活躍した人物を理解している」かどうかをみるために出題した。これは、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムの資料『写真・絵図』指導事例3 室町時代～室町文化」にもあるように、小学校における指導では、学んだことを基に、キャッチフレーズや短歌などの短い文にまとめる、あるいは、関係図などに表す学習活動を単元のまとめで取り入れたり、事象についての思いや考えをもつための体験学習を取り入れたりすることが大切になるからである。さらに、伝統文化の視点からも大切にしたい学習内容であることから出題した。

指導のポイント

1 事象について、思いや考えをもたせるための体験活動の設定

室町文化の特色を自分なりに表現させるためには、児童に室町文化の具体的なイメージをもたせる必要がある。茶道体験を通し、「落ち着いた雰囲気を感じた。」などの感想を述べている児童が多かった。

さらに、実際にすみ絵の体験もさせると、室町文化の特色「わび・さび」に触れることができる。



【茶道を体験する児童】

落ち着いた感じがする。



【児童の描いた水墨画】

2 人物や文化について、自分の言葉でまとめ表現する学習活動の充実

人物のエピソードを調べたり、茶の湯、生け花やすみ絵などの体験をしたりして、感じたことなどを自分の言葉で表現させる方法として、短歌やキャッチフレーズなどの短い文章にまとめることも一つの手段である。

その際に、今までの学習を振り返らせ、自分の思いや考えを整理し、その中で特に大事だと思うことを挙げさせ、文章に表現することである。キャッチフレーズづくりだけをするのではなく、併せて根拠を明確にさせることも大切である。

お茶を飲み
心がなごむ
習慣は
室町からの
変わらぬ文化

【室町文化の短歌例】

大自然の奥深さを
白黒で表現した雪舟

【雪舟のキャッチフレーズ例】

小学校第6学年 明治維新

【特徴的な問題】

問題 9 次の年表を見て、あとの問題に答えましょう。

出題の趣旨

明治期以降に入ると、学習する人物や業績が多くなるためか、同時期に活躍した人物や業績を取り違えていることがある。「平成24年度小学校学習指導要領実施状況調査」(国立教育政策研究所)でも、「明治期以降の歴史上の人物と業績」の一部(同時期に活躍した人物の理解)が、課題として指摘されている。そこで、本設問は、歴史上の主な出来事や人物の業績、代表的な文化遺産について、まとめられている年表を活用し、主な歴史上の出来事や人物の業績を理解できているかをみるために出題した。

指導のポイント

年表の読み取りと活用

年表とは、歴史上の主な事象が時間の流れに沿って位置付けられたものである。そのため、年表の見方や読み取れる情報などを理解させ、年表を一つの資料として活用できる力を身に付けさせたい。中学校の歴史学習でも年表を活用する場面が想定されるため、小学校から年表を活用して、時代の大まかな様子も把握できるように指導したい。ただし、歴史的事象や人物の暗記のような形で終わらせず、社会的事象間のつながりなどを考えさせるように配慮することが必要である。

<年表の例>

西 暦	主 な で き ごと
1853	ペリーが浦賀に来航し、幕府に開国をせまる
<u>1868</u>	勝海舟と西郷隆盛の話し合いにより江戸城の明けわたしが行われる 五箇条の御誓文が発布される
1871	藩がはい止され、県が置かれる
1872	福沢諭吉の『学問のすゝめ』が出版される
1874	板垣退助らが国会を開き、政治を進めるべきだと主張する
<u>1889</u>	大日本帝国憲法が発布される
1890	第一回帝国議会が開かれる

年代を比較すると、時間的な変化を読み取ることができる

主な人物の業績を読み取ることができる

事実と事実の順序を読み取ることができる

年表を活用できる場面として、単元全体や毎時の授業の見通しをもたせること、学習中に時代の流れを確認させること、学習後に年表にまとめさせることなどが考えられる。

iii 中学校第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】

<p>① 小学校の復習</p>	<p>本問題は、児童生徒の「確かな学力」の向上を図るため、社会科の学習における小・中学校7年間を見通した学習指導を推進するに当たり作成した「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムの内容を受けて設定した問題である。</p> <p>今回は、過去のさいたま市学習状況調査で課題とされた「資料から必要な情報を的確に読み取る力」、「読み取ったことを関連付けて考える力」、「時代の特徴をおさえる力」について、地理的分野では、都道府県名や北方領土等の基礎的な知識を問う問題、方位と地図記号を関連付けて地図を読み取る問題、二つの地図を組み合わせて考える問題、グラフの変化を的確に読み取る問題を出題している。また、歴史的分野では、ある時代の人物とその業績について問う問題、資料から読み取ったこととその時代の政策を踏まえて、自分の言葉で表現する問題を出題している。公民的分野では、日本国憲法の基本的な原則について出題している。</p>
<p>② 世界の地域構成</p>	<p>本問題は、過去のさいたま市学習状況調査において、「目的に応じた地図を活用する力が不足している」という継続してみられる課題を受けて設定した問題である。この単元は、中学校の地理的分野の学習の導入部分でもあるため、「小学校と中学校の学習内容の円滑な接続」も踏まえて、「世界の地域構成を大観させるために必要な知識・技能」、「目的に応じた様々な地図を読み取る力」をみる問題として出題している。</p> <p>今回は、異なる図法で表された4枚の地図を提示し、小学校での既習事項と関連する大陸や海洋の分布を問う問題、緯度と経度の表し方を問う問題、様々な地図の特色を問う問題等、世界地理を認識するために欠かせない世界地図の活用に必要な知識・技能が身に付いているかどうかについて出題している。</p>
<p>③ 世界各地の人々の生活と環境</p>	<p>本問題は、過去のさいたま市学習状況調査において、「知識と資料を読み取った結果を結び付けて考察する力」や「地図を活用する力」が継続してみられる課題であるということを受けて設定した問題である。この単元では、世界各地の人々の生活の様子を、衣食住や宗教とのかかわりを中心に、自然及び社会的条件を関連付けて理解しているかをみる問題として出題している。</p> <p>今回は、冷帯の気候帯と気温と降水量のグラフを関連付けた問題、特色のある自然環境とその地域でみられる住居のイラストから読み取ることのできる生活の工夫を問う問題、世界的に広がる宗教の分布について、分布図を用いて問う問題等について出題している。なお、世界の主な国々の名称と位置、地域区分については、適宜取り上げ、知識の定着を図るよう、指導を工夫することが必要とされており、今回は③(5)において出題している。</p>
<p>④ 歴史のとらえ方</p>	<p>本問題は、過去のさいたま市学習状況調査において、歴史学習の基礎となる「年代の表し方や時代区分」についての理解が課題であることを受けて設定した問題である。この単元では、中学校の歴史的分野の導入として行われる「年代の表し方や時代区分」についての基本的な事項が理解され、その後も、年表を用いた継続的・計画的な指導が進められているかどうかをみる問題として出題している。</p> <p>今回は、時代を大観し表現する活動として多く扱われている年表を基に、小学校での既習内容である歴史上の有名な資料や地図を活用し、時代区分の視点や時代の名称、西暦や世紀の関係についての基本的な知識・理解を問う問題を出題している。また、年代の表し方については、紀元前と世紀を組み合わせた選択肢を年代の古い順に並べ替えるといった、社会的な思考力・判断力・表現力を問う問題についても出題している。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				市 正答率（％）	市 無解答率（％）
		基礎問題	活用問題	社会的・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的・理解についての		
1(1)	方位と地図記号を基に、地図を読み取ることができる。	○			○	○	○	69.0	0.5
1(2)	都道府県の名称（高知県）と位置を理解している。	○					○	49.2	8.2
1(3)	二つの資料を関連付けて、埼玉県の様子を読み取り、正しく述べているものを選択することができる。		○		○	○		44.0	1.1
1(4)	北方領土について、名称やロシア連邦に不法に占拠されていることを理解している。	○					○	61.2	2.8
1(5)	資料を読み取り、日本の漁業の変化について、正しく述べているものを選択することができる。	○				○		73.4	1.3
1(6)	複数の資料を基に、江戸幕府がキリスト教を禁止していたことを説明することができる。	○			○	○	○	56.2	16.3
1(7)	江戸時代末期から明治期に活躍した人物と、その業績を理解している。	○					○	36.7	2.3
1(8)	日本国憲法の基本的な原則を理解している。	○					○	31.9	32.0
2(1)	地図上の0度の緯線について、名称と位置を理解している。	○				○	○	56.3	3.1
2(2)	正距方位図法の見方、世界の大陸の名称と位置を理解している。	○				○	○	55.7	1.0
2(3)	正距方位図法の見方や、八方位を理解している。	○				○	○	68.9	1.2
2(4)	太平洋の名称と位置を理解している。	○				○	○	58.7	4.1
2(5)	モルワイデ図法の特徴を理解している。	○					○	48.3	1.2
2(6)	地図上のある地点を表す緯度と経度について、正しく選択することができる。		○		○	○	○	44.5	1.6
3(1)	冷帯の気候の特色を理解し、その都市を示す雨温図を正しく選択することができる。	○				○	○	55.9	1.5
3(2)	南アメリカ大陸にある山脈の名称を理解している。	○					○	47.0	1.5
3(3)X	雨温図を読み取り、熱帯の気候の特色について説明することができる。		○		○	○	○	45.2	10.8
3(3)Y	イラストを見て、熱帯の地域で見られる住居の特徴を説明することができる。		○		○	○	○	63.3	13.3
3(4)	世界の宗教の分布を理解している。	○				○	○	67.9	2.5
3(5)	世界の主な国々の名称と位置や、地域区分を理解している。	○				○	○	78.0	2.6
4(1)	年表における時代区分の視点を理解している。	○					○	38.9	2.4
4(2)	資料を見て、関連する時代の名称を理解している。	○					○	81.2	7.5
4(3)	地図を見て、関連する時代の名称を理解している。	○					○	68.5	14.4
4(4)	西暦と世紀の関係や、年号（元号）について理解している。	○					○	49.4	4.7
4(5)	西暦や世紀を、年代の古い順に並べ替えることができる。		○		○		○	51.0	3.0

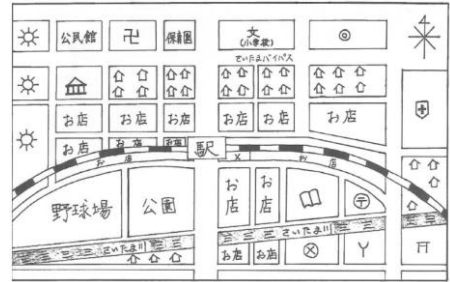
3 特徴的な問題と解説

中学校第1学年 「小学校での既習事項との系統性」

【特徴的な問題】

- 1 (1) よう子さんは、小学校3年生が学校の周りを探検して発見したものをまとめた略地図を見えています。この略地図を説明する文章として正しいものを、下のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 駅の北口を出て、北に向かって歩き、お店と家の間を東に進むと、病院があります。
イ 駅の南口を出て、南に向かって歩き、川をこえると博物館があります。
ウ 駅の南口を出て、東に歩き、公園をこえると、野球場があります。
エ 駅の北口を出て、北に向かって歩くと、西には公園、東には図書館があります。



出題の趣旨

本問題は、小学校の復習として、方位と地図記号を基に地図を読み取る問題であり、資料から必要な情報を読み取り、その内容を関連付けて考える力をみるために出題した。

これらの力は、これまでのさいたま市学習状況調査において、方位と地図記号を関連付けて読み取ることが継続してみられる課題であり、今回は、調査対象である中学1年生が小学校5年生の時に実施した「平成25年度さいたま市学習状況調査」での出題内容を参考に、経年比較の問題として作成した。なお、平成25年度における平均正答率は62.2%であった。

また、中学校第2学年で学習する「身近な地域の調査」において、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムでの「小・中一貫の視点」が、「小学校第3学年及び第4学年の内容で身に付けた知識、技能を想起させ、一層の地理的スキル向上を図らせる」と示されており、今後の問題解決的な学習を展開する上でも大切な力であるため出題した。

指導のポイント

- 「方位」について繰り返し指導し、「方位と地図記号を関連付けて読み取る力」の向上を図る。
生徒たちは、既に小学校3年生で四方位、4年生で八方位について学習している。方位の指導において、「地図では上が北。右が東、左は西…」という基礎的な事項については理解しているが、「A地点から見たB地点の方位は…」という問いに対して、「B地点は右の方に…」 「上の方に…」といった生徒の答えを耳にすることがある。これは、明らかに表現の誤りであり、生徒には、正しく方位で表現するようにと、注意を促すことが大切である。さらに、これを繰り返し指導し、地図記号と関連付けて方位を示したり、読み取ったことを記述したり、解釈したものを説明したりする学習活動に発展させ、「方位と地図記号を関連付けて読み取る力」の育成につなげていくべきである。身に付けた知識を地図上の情報と関連付け、活用する活動が重要であろう。
- 地理的分野だけでなく歴史的分野においても、積極的に地図を活用する。
歴史的分野の学習においても、教科書等で地名が出てきた際には、地図帳で調べさせたり、略地図などを描かせたり、位置関係などを確認させることで、地図に関する技能やその事象に関する理解を深めさせることができる。これは、地理的な要因との関連をもたせることや、多面的・多角的な見方や考え方を養うことにつながる。また、教室に様々な縮尺の地図を置いたり、日常的に地図の活用を図ったりすることは、生徒の関心を高めるための工夫につながると考える。

中学校第1学年 「地理的分野（世界の地域構成）」

【特徴的な問題】

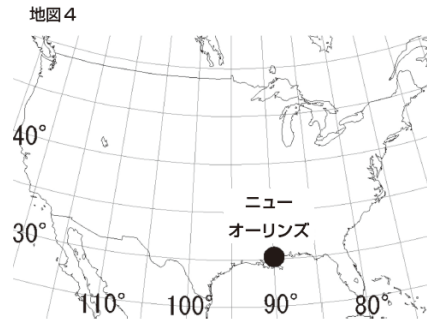
2 (5) 地図3の特徴として正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 面積を正しく表している。
- イ 大陸の形を正しく表している。
- ウ 緯線と経線が直角に交わっている。
- エ 中心からの距離と方位を正しく表している。

地図3は省略

(6) 次の地図4は、アメリカ合衆国を示した地図である。地図4のニューオーリンズの位置について、緯度と経度で説明する内容として正しいものを、下のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 南緯90度，東経30度
- イ 北緯90度，東経30度
- ウ 南緯30度，西経90度
- エ 北緯30度，西経90度



(<http://www.craftmap.box-i.net/>より作成)

出題の趣旨

本問題は、世界の地理的認識を深める際に必要とされる、世界地図の活用に関する基礎的な知識や技能が身に付いているかをみるために出題した。

これらの力は、「平成26年度さいたま市学習状況調査」での継続してみられる課題において、「目的に応じた地図を活用する力が不足している」と挙げられており、2(5)のメルカトル図法以外の地図の特徴に関する問題については、経年で比較する問題として作成した。また、2(6)のアメリカ合衆国のある都市の位置の表し方に関する問題については、地球上の位置を緯度と経度を用いて表すことができるかをみるために作成した。

指導のポイント

1 地球儀と地図の基礎的な知識を確実に定着させる。

「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムの推進の視点からも、小学校での既習事項と関連させた指導

が求められる。例として、まず、小学校5年生で学んだ地球儀の基礎的な知識を確認し、地球儀と地図を見て、右上の<例1>にあるような経線と緯線の引き方の違いを調べさせる。さらに、地球儀を利用し、世界のある都市の位置の表し方や方位、最短ルートを調べさせる活動を行う。

<例1> 経線と緯線の引き方の違い

- ・必ず北極と南極を通るのは、どちらか。
- ・長さが同じなのは、どちらか。
- ・線が平行に引かれているのは、どちらか。

2 地球儀と地図の特色を理解し、空間認識を養わせる。

比較や考察、気付いたことの見聞交換などの作業的・体験的な活動により、言語活動の育成につなげていく。まず、地図は地球儀と異なり、全ての情報を正しく描いた地図はないことを確認させ、右上の<例2>のような

様々な図法の白地図を用意し、赤道と本初子午線を着色させる。そして、それぞれの地図の利点や問題点を自分の言葉で表現する活動により、用途によって地図を使い分ける力を身に付けさせる。

<例2> 様々な図法の地図

- ・経線、緯線が直角に交わる地図
- ・面積が正しい地図
- ・中心からの距離や方位が正しい地図

中学校第1学年 「地理的分野（世界各地の人々の生活と環境）」

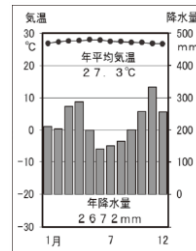
【特徴的な問題】

- 3 (3) たろうさんは地図1中のCの地域に住む人々の住居について、次の資料1、資料2を集め、下の文章にまとめました。資料1、資料2を参考にして、下の文章にある「X」には気温と降水量の両方の特徴を、また、「Y」には建物の工夫について、簡単な文章で書きなさい。

資料1 Cの地域で見られる伝統的な住居



資料2 Cの地域にある都市の雨温図



(理科年表 平成26年より作成)

Cの地域では資料1のように木や竹、ヤシなどを使用した伝統的な住居が見られます。これはCの地域が年間を通して「X」という気候の特徴があるので、風通しがよく、熱や湿気がこもらないように、「Y」などの建物の工夫がみられる。

出題の趣旨

本問題は、世界各地の人々の生活の様子とその変容を、衣食住や宗教とのかかわりを中心に、自然及び社会的条件を関連付けて考察し、世界の人々の生活や環境の多様性について理解しているかどうかをみる問題として出題している。

これらの力は、過去のさいたま市学習状況調査において、「知識と資料を読み取った結果を結び付けて考察する力が不十分」であること、「文章で表現する問題の無解答率が高い」ことが継続してみられる課題とされていることを受けて設定した問題である。また、気温と降水量のグラフの読み取りについては、これ以後の地理的分野の学習内容を進めていく上でも、おさえるべき基礎的・基本的な知識や技能であること、さらに、このグラフと地図や写真、イラスト等を関連付けた問題については、ここ数年続けて出題しているという経年の変化をみる視点も踏まえて作成した。

指導のポイント

- 1 資料の読み取り方の視点を身に付けさせる。

まず、3(3)の資料1について、建材や窓の大小、床下の高さの他、周りの植物の植生等に着目させる。そして、資料2については、①年平均気温を基に、気温の高い時期や低い時期はいつか、②降水量から、雨の多い時期や少ない時期、年間降水量はどのくらいか、等に着目させる。初めは、それぞれの資料から読み取った内容を短文で表現させる学習活動を取り入れ、さらに、複数の資料の比較や関連付けにつなげるようにする。このような場面を、計画的・継続的に位置付けることで、資料を正しく読み取る技能を高めるとともに、説明する活動への抵抗感を払拭できると考える。

- 2 多様な学習活動を通して、社会的な思考力・判断力・表現力の育成を図る。

世界各地の気候を取り扱う際には、世界地理の学習への興味・関心が高められるように、各種の視聴覚教材を活用する。また、統計資料を基に、様々な地域の気温と降水量のグラフをノートに書かせたり、それを比較させたり、考察させたりする活動も効果的である。さらに、ペア学習やグループ学習を計画的に実施し、気付いたことを意見交換したり、アドバイスをしたりする学び合いや伝え合いの活動を通して、言語活動の充実を図っていきたい。

中学校第1学年 「歴史的分野（歴史のとらえ方）」

【特徴的な問題】

- 4 (5) 年代のあらわし方に着目して、次のア～エを年代の古い順に並びかえ、その順に記号を書きなさい。

ア 紀元前80年 イ 800年 ウ 紀元前8世紀 エ 8年

出題の趣旨

本問題は、中学校の歴史的分野の導入である「年代の表し方や時代区分」について、小学校での人物や文化財に重点をおいた学習との円滑な接続が図られ、基本的な事項が理解されているか、その後の学習にて年表を用いた継続的・計画的な指導が進められているかをみる問題として出題している。

これらの力は、過去のさいたま市学習状況調査において、「歴史学習の基礎となる年代の表し方や、時代区分についての理解が不足している」ことが継続して課題となっていることを受けて作成した問題である。

指導のポイント

- 1 歴史学習の導入として、小学校での既習事項を活用した年表作成などの作業的な学習を設定する。

中学校では、人物中心に学んだ小学校の歴史学習に串を通すイメージで時代の流れを学習させるとともに、扱う内容や活動の仕方を工夫し、生徒に歴史を学ぶ意欲を高めさせていきたい。なお、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムでは、時代を大観する作業的な学習の例として、右の〈例〉のような年表のテーマ名を挙げている。

〈例〉 テーマ別年表の作成例

- ・歴史を動かした人物でみた歴史の流れ
- ・文化で活躍した人物でみた歴史の流れ
- ・服装で見た歴史の流れ
- ・建物で見た歴史の流れ
- ・外国との関係でみた歴史の流れ
- ・優れた芸術作品でみた歴史の流れ

- 2 「年代の表し方や時代区分」の学習を、各時代の学習において計画的・継続的に進める。

年表には「0年」という概念がないこと、「1～100」のまとまりを「1世紀」とすること等、年代の表し方の基礎を定着させ、繰り返し学習させることが大切である。また、各時代の学習においては、時代区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるような指導が求められる。

歴史学習の導入で習得させたい基礎的・基本的な内容

〈年代の表し方〉

- ・西暦（紀元前・紀元後）、世紀（紀元前・紀元後）、日本の年号（元号）について理解させる。

〈時代区分の方法〉

- ・政治の中心地によって、時代を大きく分ける方法（「平安時代」「鎌倉時代」「江戸時代」など）、社会の仕組みの特徴によって、時代を大きく分ける方法（「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」）を理解させる。

〈年表のまとめ方〉

- ・時系列で図式化し、まとめさせる。
- ・日本の歴史の展開を、世界の動きと関連付けてまとめさせる。
- ・歴史的事象を「政治の展開」「産業の発達」「社会の様子」「文化の特色」などに分類し、他の時代との共通点や相違点に着目した上で、日本の歴史を大きくまとめさせる。
- ・「歴史の転換点となるできごと」「歴史的事象と事象のつながり」「さいたま市の歴史に関わるできごと」などを取り上げてまとめさせる。

iv 中学校第2学年

1 調査問題【出題の趣旨】

<p>1 世界の地域構成 世界各地の人々の生活と環境</p>	<p>本問題は、過去のさいたま市学習状況調査において、「目的に応じた地図を活用する力」や「知識と資料を読み取った結果を結び付けて考察する力」など、継続してみられる課題を受けて設定した問題である。</p> <p>今回は、正距方位図法とメルカトル図法の地図の特徴を正しく理解しているかどうかをみる問題、地図中に示された都市や地域における世界の人々の生活の変化に関する問題、地図上の地点の気温と降水量の正しいグラフを選択する問題等を出題している。なお、メルカトル図法以外の地図の特徴に関する問題、世界の人々の生活や環境の多様性の理解に関する問題については、経年での変化をみるために、過去の出題内容や今年度の中学1年生における出題内容との系統性が図られている。</p>
<p>2 世界の諸地域</p>	<p>本問題は、過去のさいたま市学習状況調査において、「知識と統計資料を読み取った結果を結び付けて考察する力が不十分である」という、継続してみられる課題を受けて設定した問題である。また、文章で表現する問題に対する無解答率が高い傾向がみられることも踏まえ、本設問を作成した。</p> <p>今回は、地図と地下資源の国別生産割合の資料に基づいて鉱産資源名を解答する問題、基礎的・基本的な知識を基に、アフリカの人口問題に関係する資料を選ぶ問題、アメリカの農業の特徴に基づく資料に関する問題、ブラジルの輸出品の変化についての資料から、自分の言葉でまとめる問題を出題している。</p>
<p>3 日本の地域構成 世界と比べた日本の地域的特色</p>	<p>本問題は、過去のさいたま市学習状況調査において、「知識と統計資料を読み取った結果を結び付けて考察する力」や「目的に応じた地図を活用する力」が課題とされていることを受けて設定した問題である。</p> <p>今回は、北陸新幹線の路線図が書かれた中部地方の地図を基に、気温や降水量のグラフ、統計資料等と合わせて、小学校で学習した都道府県の名称や位置等の知識の定着を図る問題、国内の産業や気候の特色、東半球にある日本と西半球にある都市との時差を計算する問題、世界と比較して日本の河川の特徴を導き出す問題等を出題している。単なる基礎的・基本的な知識を問う問題に限らず、資料から読み取った内容を活用して解答を導き出すような問題を出題した。</p>
<p>4 原始～中世の日本</p>	<p>本問題は、各時代の政治や文化、歴史上の人物、民衆の生活の様子等に関するまとめを通じて、主に、原始から中世までの日本の歴史に関する基礎的・基本的な内容についての理解とともに、歴史的事象に対する思考力・判断力・表現力を見るために出題した。</p> <p>今回は、各時代の特色を表す文章と資料が書かれた4枚のカードを基に、年代の古い順に並べ替える問題、それぞれの時代の歴史的事象にかかわる展開や背景について、資料とともに考察する問題を出題している。</p>
<p>5 古代～近世の日本</p>	<p>本問題は、過去のさいたま市学習状況調査において、「各時代の特色をとらえ、我が国の歴史の大きな流れを理解すること」や、「歴史学習の基礎となる年代や世紀の表し方について理解すること」が課題として挙げられていることを受けて設定した問題である。</p> <p>今回は、古代から近世の日本の歴史に関する略年表を基に、政治の展開や社会の様子、文化の特色等について、資料とともに考察する問題、略年表を参考にして年代や世紀の表し方を問う問題を出題している。</p>

2 調査問題一覧表【設問別】

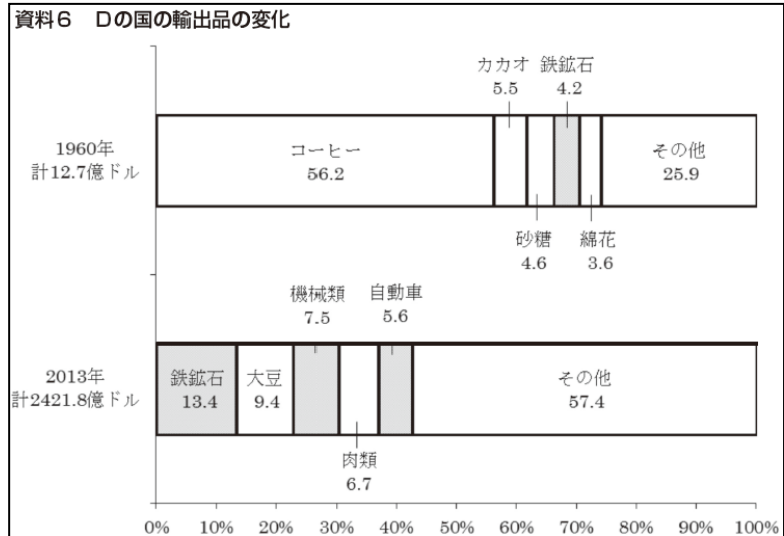
設問番号	設問のねらい	問題		評価の観点				市	市
		基礎問題	活用問題	社会的 関心事象 ・意欲 ・態度	社会的な 思考・判断 ・表現	資料 活用の 技能	社会的 事象に ついての 知識・ 理解	正 答率 (%)	無 解答 率 (%)
1(1)	地図上の本初子午線と赤道の位置を理解している。	○				○	○	62.0	0.4
1(2)	正距方位図法の見方を理解している。	○				○	○	86.0	0.4
1(3)	モルワイデ図法の特徴を理解している。	○					○	41.4	0.4
1(4)	サヘルと呼ばれる地域の気候と、そこに暮らす人々の生活の変化について理解している。	○					○	73.2	0.5
1(5)	南半球の温帯の気候の特色を理解し、その都市を示す雨温図を正しく選択することができる。	○				○	○	43.7	0.7
2(1)	サウジアラビア、アメリカで多く産出する鉱産資源を理解している。	○					○	46.0	0.6
2(2)	アフリカの人口問題に関連する資料を正しく選択することができる。	○				○	○	55.3	0.6
2(3)	二つの資料から、アメリカの農業の特色を読み取ることができる。		○			○		64.1	1.5
2(4)	資料を基に、ブラジルの産業の変化を説明することができる。		○		○	○	○	33.4	17.8
3(1)	地図を基に、北陸新幹線が通過しない都道府県の名称を選択することができる。	○					○	78.1	0.6
3(2)	日本の果樹栽培の盛んな県を理解している。	○					○	55.9	5.1
3(3)	日本海側の気候の特色を理解している。	○					○	74.5	4.3
3(4)	東半球にある日本と西半球にあるロサンゼルスとの時差を求めることができる。		○			○	○	58.8	2.6
3(5)	資料を基に、日本の河川の特徴を説明することができる。		○		○		○	71.4	6.1
4(1)	原始から中世の歴史的な事象を、年代の古い順に並べ替えることができる。	○				○	○	63.1	0.9
4(2)	鎌倉時代に広まった仏教について理解している。	○					○	31.6	1.2
4(3)	聖徳太子によって整えられた政治制度について理解している。	○			○		○	70.1	1.1
4(4)	稲作文化が広まった頃と同じ時代の文化財を理解している。	○				○	○	64.0	2.5
4(5)	聖武天皇が大仏を建立した理由を、時代背景とともに説明することができる。		○		○		○	38.1	20.7
5(1)	中世という時代区分について理解している。	○					○	48.9	2.0
5(2)	西暦と世紀の関係を理解している。	○					○	52.0	5.2
5(3)	鎌倉時代の民衆の生活の様子を理解している。	○			○		○	19.5	1.8
5(4)	室町幕府が開かれた場所を理解している。	○				○	○	65.3	1.8
5(5)	桃山文化の特徴とその時代の代表的な文化財の組合せを、正しく選択することができる。	○			○	○	○	47.1	2.9
5(6)	徳川家康によって行われた貿易の振興について理解している。	○					○	22.5	13.9

3 特徴的な問題と解説

中学校第2学年 「地理的分野（世界の諸地域）」

【特徴的な問題】

- 2 (4) たろうさんは、地図中のDの国の輸出品の変化をあらわす資料6から分かったことを、下の文章にまとめました。下の文中の③にあてはまる簡単な文章を、資料6を参考にして書きなさい。



たろうさんのまとめ

資料6のDの国の輸出品目を見ると、1960年は、コーヒーやカカオなどの農作物が多くをしめていたが、2013年になると、鉄鉱石などの地下資源、機械類、自動車が上位5位に入ようになってきた。つまり、Dの国は地下資源の開発とともに③といえる。

出題の趣旨

本問題は、世界地図で示されたDの国であるブラジルの輸出品の変化を表す資料について、年代による変化やその地域の産業の特色を読み取る力とともに、読み取った結果を適切に表現することのできる力をみるために出題した。

これらの力は、過去のさいたま市学習状況調査において、「知識と統計資料を読み取った結果を結び付けて考察する力が不十分である」という課題が継続してみられること、また、文章で表現する問題に対する無解答率が高い傾向がみられることから、本問題を作成した。

指導のポイント

- 1 統計資料を読み取るために必要な基礎・基本を定着させる指導を行う。

まずは、帯グラフが「割合や割合の変化を見る」グラフであること、そして、表題とともに上下の2つのグラフが何を表しているのかを把握させる。その上で、大きな割合を占めている項目や、大きく割合が増えたり減ったりしている項目に着目し、変化の特徴を読み取らせる。その際には、ICT機器を活用して、視覚的にとらえさせる等の指導方法の工夫も効果的である。

- 2 多様な学習活動を取り入れ、資料を活用して適切に表現する能力を育てる。

各種の統計資料を基に、実際にワークシートや白地図等に着色し、グラフを作成させる作業的な学習や、資料を読み取って自分の考えをまとめる活動では、個人で考えるだけでなく、小グループで話し合ったり、お互いにまとめた内容を発表したりする等、計画的に多様な学習活動を取り入れることで、言語活動の充実を図ることができる。

中学校第2学年 「地理的分野（世界と比べた日本の地域的特色）」

【特徴的な問題】

③ (2) 次の資料1は、農作物の全国の収穫高をあらわしたものです。資料1の□Xに共通して当てはまる都道府県を、地図1中の北陸新幹線のルートとなっている都道府県から一つ選び、その都道府県名を、漢字で書きなさい。

(5) としおさんは、日本の川について興味をもち、次の資料3を見つけました。資料3を参考にして、世界の川と比較した日本の川の特徴を、長さの流れに触れて、説明しなさい。

資料3は省略

出題の趣旨

本問題は、資料から必要な情報を的確に読み取る力や、読み取ったことを関連付けて考える力を見るために出題した。

これらの力は、過去のさいたま市学習状況調査において、継続してみられる課題である。また、「さいたま市小・中一貫教育」カリキュラムにおける「円滑な接続のための指導のポイント」では、「統計資料の活用の仕方」が示されており、授業での問題解決的な学習を展開する上でも大切な力であるため出題した。

指導のポイント

1 統計資料と地図を関連付けて考えさせる。

③(2)では、まず、地図1から北陸新幹線のルートとなっている都道府県を読み取り、□Xには、東京都、埼玉県、群馬県、長野県、新潟県、富山県、石川県のいずれかが当てはまることを確認させる。

次に、資料1から、□Xには果樹栽培がさかんな都道府県が当てはまることをおさえ、さらに、果樹栽培がさかんな地域には、盆地や扇状地などの自然的条件が見られることにも着目させる。

そして、この二つの資料から読み取ったことを関連付けて、解答を導き出す。授業においては、どのような視点で資料を読み取るのかを明確に指導する必要がある。

2 グラフを読み取り、説明させる。

③(5)では、まず、資料3が、河川の標高を縦軸で、河口からの距離を横軸で表したグラフであることをおさえ、縦軸と横軸のそれぞれについて、日本と世界の河川の違いを読み取らせる。それと同時に、問題文には「川の長さの流れに触れて説明する」という指定された条件があることを把握させる。

さらに、文末表現にも着目したい。普通の授業においては、特徴を述べるのか、理由を述べるのか等、問われ方によって、どのような文末表現になるのかを指導し、言語活動の充実を図るべきである。

地図1 北陸新幹線ルート



資料1 農作物の統計資料

	農作物 (t)		
	もも	ぶどう	りんご
1位	山梨 46,500	山梨 45,200	青森 424,800
2位	福島 29,300	□X 29,500	□X 143,500
3位	□X 16,300	山形 19,200	山形 45,900
4位	和歌山 10,800	岡山 15,600	岩手 40,200
5位	山形 8,170	福岡 9,050	福島 24,300

(2014年農林水産省資料)

中学校第2学年 「古代までの日本～近世の日本（テーマ史）」

【特徴的な問題】

4 (1) カードA～Dを年代の古い順に並びかえ、その順に記号を書きなさい。(画像等一部省略)

カードA 一遍の踊念仏	カードB 聖徳太子の政治	カードC 稲作文化の広まり	カードD 東大寺の大仏
----------------	-----------------	------------------	----------------

(5) カードDについて、説明文の ③ にあてはまる、聖武天皇が大仏をつくらせた理由を、下の二つの語句を必ず用いて説明しなさい。

《語句》

ぶっきょう
仏教

こっか
国家

カードD

この大仏は、^{てんが}天
文化を代表するも
のである。大仏をつ
くるように命じた
^{しやうむてんのう}聖武天皇は ③ 。

出題の趣旨

本問題は、各時代の政治や文化、歴史上の人物、民衆の生活の様子等に関するまとめを通じて、中世までの日本の歴史に関する基礎的・基本的な内容を理解させるとともに、歴史的事象に対する思考力・判断力・表現力を見るために出題した。

これらの力は、過去のさいたま市学習状況調査において、継続して見られる課題であり、4 (5) の聖武天皇に関する問題については、経年比較の問題として作成した。文章で表現する問題の無解答率は、上の表のようにやや減少しているものの約2割と高い傾向が見られる。なお、歴史的分野における、カードに書かれた文章や資料について年代の古い順に並べ替える問題や、歴史的事象について文章で表現する問題は、毎年、埼玉県公立高等学校入学選抜における学力検査問題でも問われる出題形式である。

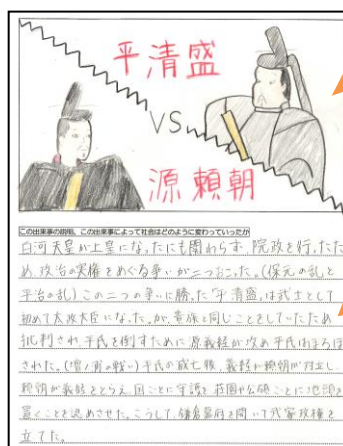
4 (5) の過去3年間の無解答率

平成24年度	21.2%
平成25年度	22.3%
平成26年度	19.6%

指導のポイント

○ 言語活動の充実を図る学習活動により、各時代の特色や他の時代との関連付けを意識させる。

学習した内容を活用し、自分の言葉や図で表現する活動や、発表や意見交換を行う活動を年間指導計画に位置付け、計画的・継続的に指導を行う。特に、人物を重視した小学校での歴史学習を踏まえて、時代を大観し表現する力を養うとともに、学習内容のより確かな理解と定着を図ることが大切である。具体的には、歴史上の人物にスポットを当てた歴史的事象のまとめや人物相関図、年表づくりなどの作業的な学習、適切な課題を設けて単元ごとにまとめを行う課題解決的な学習などが挙げられ、時代の共通点や相違点に気付かせるとともに、歴史を学ぶ意欲を高めさせるような指導が求められる。なお、自分の言葉でまとめることが難しい場合は、文章を書くことに抵抗感をもたせない工夫として、空欄の穴埋めから始めるなど、スモールステップを踏むのも効果的であろう。



その時代の特色ある出来事を取り上げ、イラストで表現している。

その時代の特色ある出来事について説明し、どのように社会の仕組みが変化していったのかを記述している。

中学校第2学年 「歴史的分野（古代～近世の日本）」

【特徴的な問題】

5

略年表

時代	ア			イ			ウ			エ					
	縄文 <small>じょうもん</small>	弥生 <small>やよい</small>	古墳 <small>こふん</small>	飛鳥 <small>あすか</small>	奈良 <small>なら</small>	平安 <small>へいあん</small>	鎌倉 <small>かまくら</small>	室町 <small>むろまち</small>	安土・桃山 <small>あづち・ももやま</small>	江戸 <small>えど</small>					
できごと				都を平城京に移す……… A			B			統一される 南朝と北朝が……… C		D		江戸幕府が開かれる……… E	

※この略年表の時代ごとの幅は、実際の期間(年数)とは異なっている。

- (1) さまざまな時代や年代のあらわし方のうち、社会のしくみの特徴によって時代を大きく分けた場合、「中世」に当たる時期を略年表中の「ア～エ」の中から一つ選び、その記号を書きなさい。
- (2) 略年表中のAについて、「都を平城京に移す」というできごとは、710年だとされています。710年を「世紀」で表すと何世紀ですか。数字を書きなさい。

出題の趣旨

本問題は、5(1)では、社会の仕組みの特徴によって時代を大きく分けた場合の時代区分について、5(2)では、世紀と西暦の関係の基礎的な知識や理解についてみるために出題した。

これらの力は、過去のさいたま市学習状況調査において、「歴史学習の基礎となる年代や世紀の表し方についての理解が不足している」という課題が示されており、今回は、同様の問題を中学校1年生においても作成し、経年の比較だけでなく学年ごとの理解度の比較を行うこととした。

なお、歴史的分野における、年表を基に、政治・経済・外交などの各分野についての基礎的な知識や歴史の大きな流れを広い視野からとらえる力を見る問題は、毎年、埼玉県公立高等学校入学者選抜における学力検査問題でも問われる出題形式である。

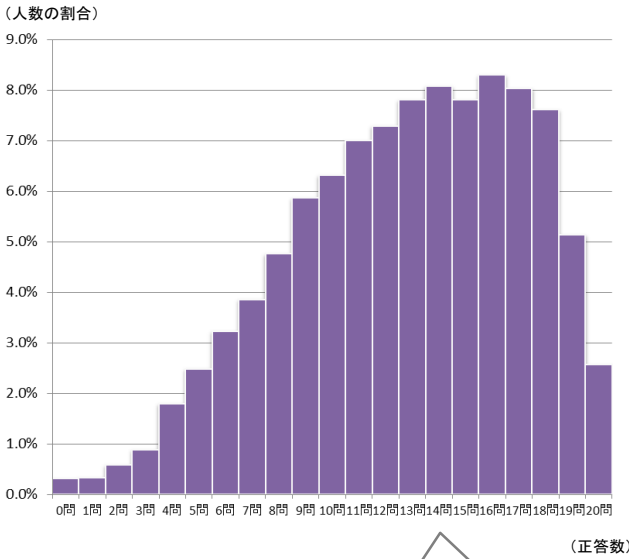
指導のポイント

- 1 年表を活用する場面を設定し、基本的な知識や技能を計画的・継続的に身に付けさせる。
時代区分や西暦と世紀の関係は、繰り返し取り上げることで知識の定着を図ることができる。具体的には、毎時間の授業において、黒板への板書やICT機器を活用した年表の提示により、年代の表記、時代区分、西暦と世紀の表し方等の基本的な事項を理解させる。また、教科書の各ページの右側に記載されている「確認」を書かせる活動を継続的に行うことも、その時代の特色を理解することにつながるであろう。
- 2 単元のまとめにおいて、その時代の特色を年表でまとめる作業的な学習を行う。
自作年表に取り組みさせることは、思考力・判断力・表現力を養うとともに、学習内容のより確かな理解と定着を図ることにつながる。日本の歴史を大きくとらえさせるために、世界の動きと関連付け、政治の展開だけではなく、産業の発達、社会の様子、文化の特色など、他の時代との共通点や相違点に着目し、それぞれの時代の特色を明らかにするとよい。

Ⅲ 調査結果概況【市全体】

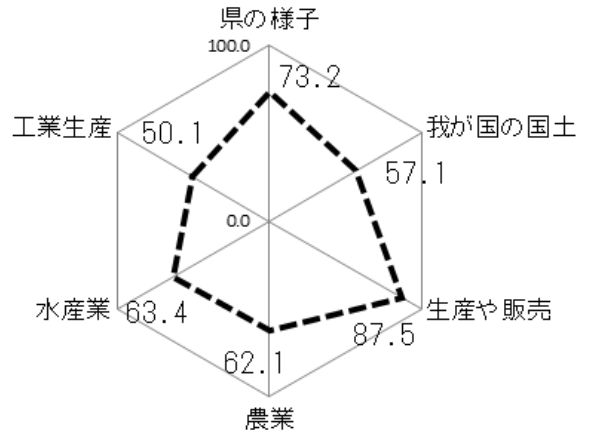
小学校第5学年【社会】

【正答数分布】(全20問)



【領域別レーダーチャート】

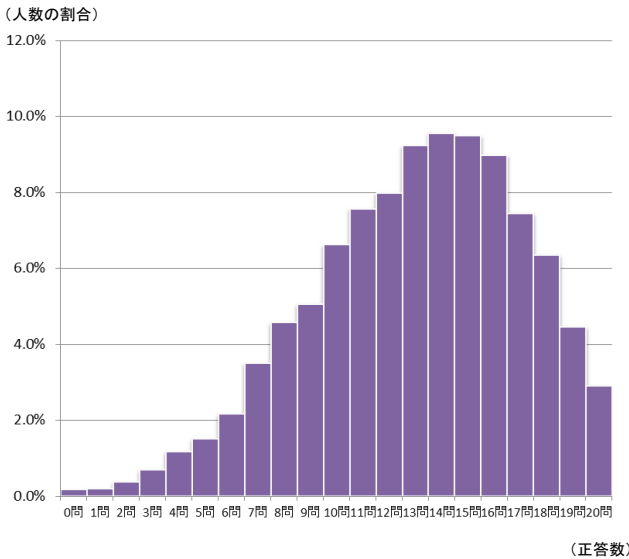
数字・・・市の平均正答率(%)



正答数ごとの人数の割合を示したものです。
例えば、20問中14問正答した児童の割合が8.0%
程度であることを表しています。

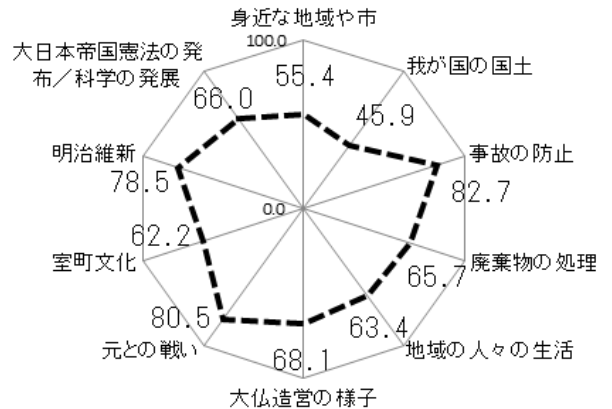
小学校第6学年【社会】

【正答数分布】(全20問)



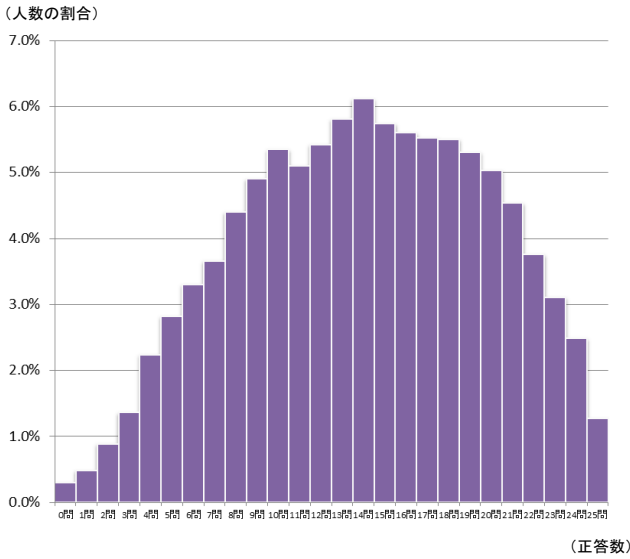
【領域別レーダーチャート】

数字・・・市の平均正答率(%)



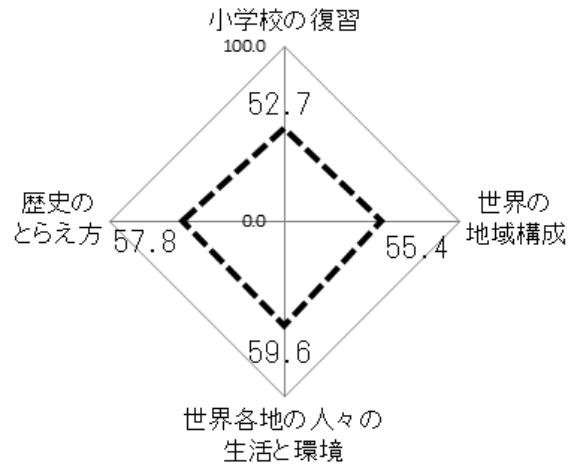
中学校第1学年【社会】

【正答数分布】(全25問)



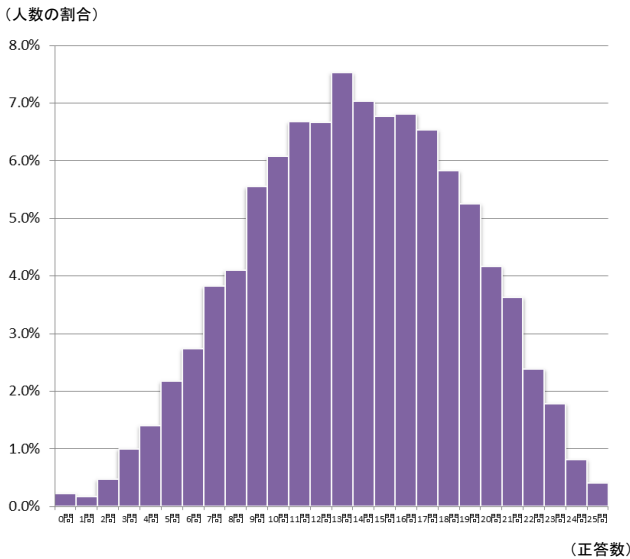
【領域別レーダーチャート】

数字・・・市の平均正答率(%)



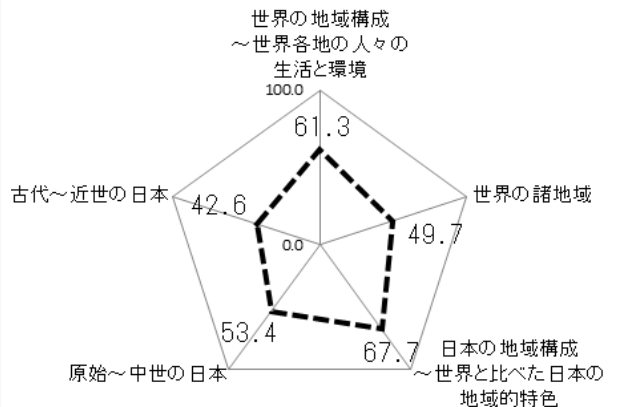
中学校第2学年【社会】

【正答数分布】(全25問)



【領域別レーダーチャート】

数字・・・市の平均正答率(%)



IV 成果と課題

(1) 小学校

<成果>

- お客さんの願いとスーパーマーケットの工夫との関連、事故が起きた際の関係諸機関の連携に関する資料を読み取る問題で正答率が高く、良好な状態である。見学、体験的活動や資料の読み取りを基にした話し合い活動の充実がうかがえる。
- 索引記号と地図上の位置を結び付けることはよくできている。地図帳や地球儀の活用を一層図りたい。
- 「都道府県別米の生産量の分布図」や「元軍との戦いの絵図」を読み取る問題の正答率が高い。授業においても、全体や細部を読み取らせたり、比較させたりするための提示の仕方や発問をさらに工夫していくとよい。
- 経年比較のため出題している「二つの地図を関連付けて考え、埼玉県の様子を読み取る」問題では、正答率が昨年度より10%以上、上回っている。適切な資料の選択と読み取り、位置関係のとらえ方に改善がみられる。

<課題>

- ▲方位に関して身に付けた知識を活用する問題に課題がみられる。身に付けた知識を活用して地理的位置などを表現する活動を様々な単元で充実させる必要がある。
- ▲資料から情報を読み取る技能に継続して課題がみられる。グラフの種類に応じた読み取り方、複数のグラフや地図とグラフなど種類の異なる資料を関連付けた読み取り方などを具体的に指導していくことが大切である。
- ▲文章で表現する問題について課題がみられる。分かったことや考えたことについて根拠を示しながら説明できるようにする指導を日頃から行うことが大切である。
- ▲「北方領土」や歴史上の人物名などの用語・語句を記述で解答する問題の正答率が低く、かつ無解答率が高い。基礎的な知識については、図や表に整理したり、授業の中で繰り返したりして、確実に身に付けるよう指導していくことが求められる。

(2) 中学校

<成果>

- 「世界の主な国々の名称と位置や地域区分」「都道府県名」「時代名」など、地理学習や歴史学習の基礎的な用語に関する問題は正答率が高い。授業で繰り返し扱われることの多い用語についての基礎的・基本的な知識の定着は図られている。
- 小学校でも扱われている「日本の漁業の変化」や「日本の河川の特徴」に関する資料を読み取る問題では、正答率が70%以上であった。1つの資料に関して必要な情報を正しく読み取る技能については、身に付いている生徒が多いといえる。
- 経年比較のため出題している「中世」の時期を年表中から選ぶ問題では、昨年度より正答率が約15%上回る結果となった。時代の区分やその移り変わりについて、小学校における学習を踏まえて、扱う内容や活動の仕方を工夫するとともに、継続的・計画的な指導をより一層進めることが求められる。

<課題>

- ▲「緯度と経度」「朱印船貿易」など用語の記憶だけでなく、類似する用語と混同せずに正しい概念の理解が必要となる問題では、正答率が低い。学んだことを説明したり、自分の言葉で表現する言語活動を充実させることにより、学習内容の着実な理解を図りたい。
- ▲ブラジルの産業の変化を複数の帯グラフから読み取る問題、大仏造営の理由を時代背景とともに説明する問題など、文章で答える問題は無解答率が高く、課題がみられた。複数の資料を関連付けたり、基礎的・基本的な知識や技能を活用してまとめる学習を工夫し、書くことに慣れさせることが必要である。
- ▲小学校の復習では、同時代に活躍した人物の多い「江戸時代末期～明治期の歴史上の人物の業績」や公民的分野の「日本国憲法の基本的な原則」の問題、また、中学校で新たに学ぶ学習内容では、「目的に応じた地図の活用」「西暦と世紀の関係」「中世以降の民衆の動きや文化」の問題において課題がみられた。